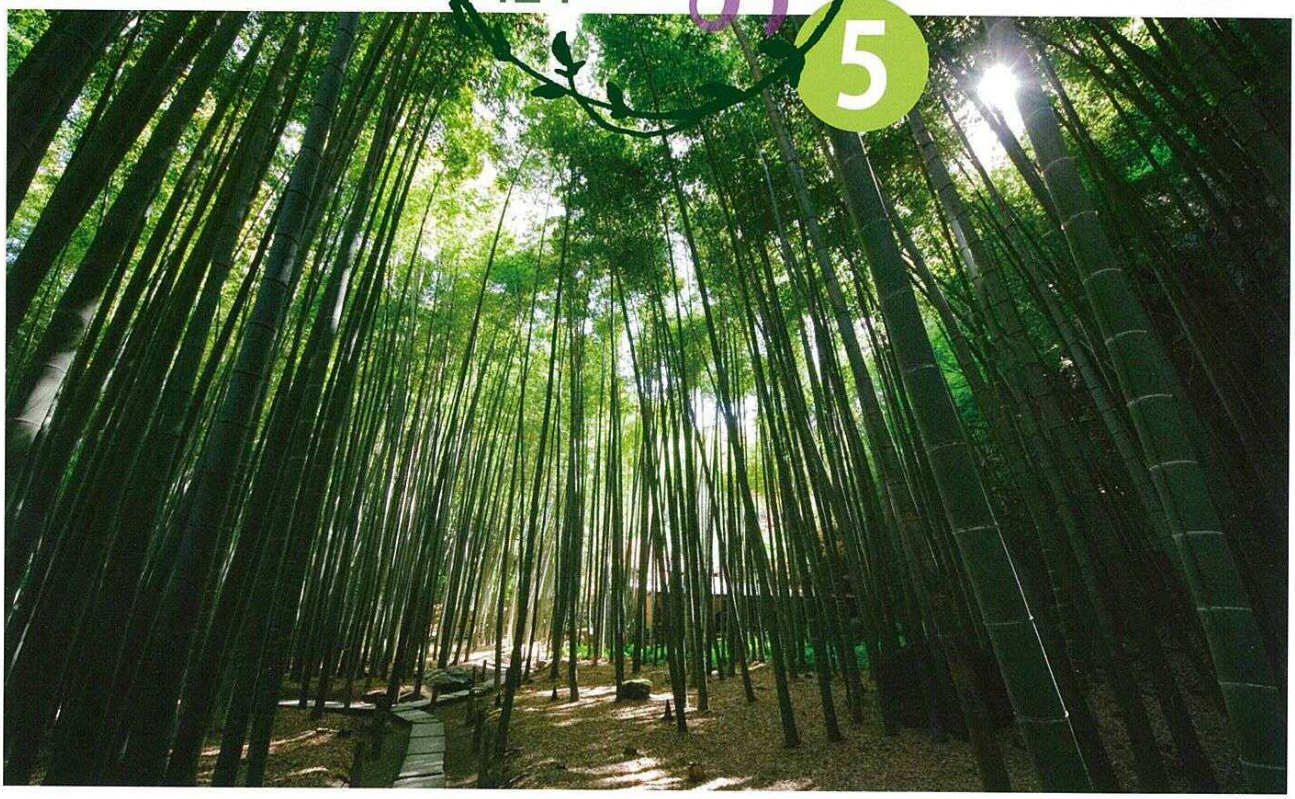
南無阿弥陀仏は
私のいのち

えこお
平成25年
5月号
NO. 424
5

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
http://saitokuji.tobiiro.jp/
発行人 岸本 秀一
印 刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



旅の目的

五月になり、間もなくゴールデンウィークを迎える。今年の連休は旅行に行く人が過去最高になる見通しらしい。

現代の旅行はおおよそ、観光、温泉、お土産という要素から成り立っているが、こういった旅は江戸時代にはすでに成立していたようである。始まりは伊勢参りに代表される参詣を名目とした旅であり、当時の旅は単に娯楽だけではなく、自ら見聞して得た知識を地元に還元する学習の旅でもあった。行き交う旅人は各地へ技術や道具を伝播させ異文化交流の担い手となったそうである。

新しいものに会うという意味では、今も昔も旅の目的は変わっていない。しかしその新しいものに会うということは、同時に自分の知識、経験に腰を下ろしていた自分自身に気付かされることにもなるのではないだろうか。

人生を旅に喩える言葉は多くあり、自分探しの旅という言葉もはやっているが、どこまでも自己を教えられるということを表しているのだと思う。

最近はリフレッシュを目的に旅に出る人が多いそうだが、実は無意識に自分という狭さを教えられる旅に出ているのである。

春の鎌倉を訪ねて
～鎌倉聞法会（五ブロック共催）～

今回開催された鎌倉聞法会は「出かけていく聞法会」が、来年三十周年を迎えるにあたり、五ブロック会の更なる推進をはかる為に企画されました。

今回の参加者は四十名。当日は天候にも恵まれ、とても清々しい陽気の中での鎌倉観光となりました。

最初に訪れたのは「浄土宗関東総本山光明寺」。大殿を全員でお参りした後、非公開の山門を見学させて頂きました。

昼食は光明寺様で精進料理を頂き、食後には光明寺様の法務部長さんから特別に琵琶の演奏がありました。予定外の事だっただけに皆様大変喜んでおられました。

午後には別名竹寺と言われる「報国寺」と「旧華頂宮邸」を訪れました。報国寺を訪れた際には、天候が良かったせいか参拝者が多くゆっくり拝観出来ませんでした。旧華頂宮邸は「日本の歴史公園百選」にも選ばれており、綺麗に整備された庭園が魅力的でした。

そして最後にはフレンチレストラン「レグリーズ鎌倉」にて、聞法会・懇親会が開かれました。岸本住職からは、鎌倉にまつわる話や、今回訪れた光明寺の話を交えたご法話を頂きました。

聞法会終了後、懇親会となり皆様美味しい食事をしながら、他ブロックの方との交流をはかっておられました。

この度はご参加頂きましてありがとうございました。

（大橋　伊知郎　記）

正信偈の話㉑

松井憲一

已能雖破無明闇　貧愛瞋憎之雲霧　常覆真実信心天

（已に能く無明の闇を破すと雖も、貧愛、瞋憎の雲霧、常に真実信心の天に覆えり。）

親鸞聖人は、仏の光に照らされた人は「無明のやみはれ、生死のながきよすでにあかつきになりぬとしるべしとなり。『已能雖破無明闇』というは、このこころなり。信心をうればあかつきになるがごとしとしるべし。（『尊号真像銘文』）」といわれます。常に照護したもう光に出遇ったあかつきの世界は、「真実信心の天」といわれるように、わたしの努力をこえて、賜った信心です。だから、しばらくはまるで世界がかわったように感じ、今までベールがかかっていたように思えた教えが、新鮮さを保って次々とわたしをうなづかせ、歩ませます。

しかし、闇がはれれば、いつも澄みきった青空のような心境がつづくのではありません。太陽がでて夜は明けても、雲・霧がおこって曇天の日もあるのです。でもそれは、雲・霧が見えるのですから闇夜ではありません。それで、聖人は、「『貪愛瞋憎之雲霧 常覆真実信心天』というは、われらが貪愛瞋憎をくもきりにたとえたり。貪愛のくも、瞋憎のきり、つねに信心の天におおえるなりとしるべし。（『尊号真像銘文』）」といわれます。つまり、煩悩の中に信心があるのではなく、信心の天の中につねに煩悩の姿がみえてくるのです。

だから、親鸞聖人は、ご和讃に「浄土真宗に帰すれども、真実の心はありがたし、虚仮不実のわが身にて、清浄の心もさらになし（『愚禿悲歎述懐』）」と述べられ、また、お弟子の唯円房の「念仏もうしそうらえども、踊躍歓喜のこころおろそかにそうろうこと、またいそぎ浄土へまいりたきこころのそうらわぬは、いかにとそうろうべきことにてそうろうやらん」という質問をうけて、「親鸞もこの不審ありつるに、唯円房おなじころにてありけり（『歎異抄』）」といわれます。

このお言葉は、浄土真宗に帰し、踊躍歓喜のこころがおこった。その「真実信心の天」にふれた念仏道の歩みの中で明らかになった、聖人の懺悔です。懺悔は、反省でも落胆でも悲鳴でもありません。光に照らされてあらわになった、どうしてみようもないわが身への深い悲しみであり、より深く教えにふれた喜びなのです。

だから、このお言葉を引き合いに出して、「親鸞聖人でさえ、真実の心はない、踊りあがるような喜びもなく、いそぎ浄土へまいりたいと思わないともいわれるから、わたしのような凡夫には、ありがたい心など起こるはずはない。」と、自分の曖昧な信心のいいわけにすることはできません。また、鈴鹿馬子唄をもじって、「寺は照る照る帰りは曇る、家へ帰れば雨が降る」と、念仏者を批評する人もいます。どれほど寺参りをし聴聞を重ねても帰り道に忘れてしまい、家に着いた時には何の役にも立っていないといいたいのでしょう。しかし、こうした評価も、わたしの求道の姿勢をいい当てたものと受けとめれば、質がちがって聞こえてきます。

それで、聖人は、「『譬如日光覆雲霧 雲霧之下明無闇』というは、日光の、くもきりにおおわれども、くもきりのしたあきらかなるがごとく、貪愛瞋憎のくもきりに信心はおおわれども、往生にさわりあるべからずとしるべしとなり。（『尊号真像銘文』）」といわれます。つまり、身を煩わし心を悩ます生活は同じであっても、南無阿弥陀仏の教えに目覚めた信心の人は、欲望やいかりがそのまま聞法の内容になり、往生生活を尽くすご縁になるといわれるのです。

山門の言葉

自分の座忘れて　人の座に
つこうとするさけ　むつかしなる

山越　初枝

この言葉に触れたとき、父が亡くなってしばらくして伯父から「出しゃばるなよ」と投げ掛けられた記憶が甦った。

一家が大変なとき、自分なりに考えて行動した結果、どうも次男である私は長男である兄がすべきことに手を出していたらしい。しかし無意識だったと同時に、一体何が悪いのか分からないというのが正直なところだった。

しかし人の座を侵すときは自分の座を忘れているといわれる。本来の自分のすべきことを見失っているということではないだろうか。無意識とはいえ過信と同時に、そこには不安でたまらない私が居る。その不安のは、認めて欲しい、評価をして欲しいという欲求からくるのであろうか。

いろいろ考えているとは言いながら、結局は自分のことしか考えていなかった。だから人の立場を侵してまでも保身していることに自分では気が付かない。

「むつかしくなる」ことの根元がそういう私の在り方だとは夢にも思わず、上塗りのように人に責任を押しつけているのではないか。

出しゃばる裏側の過信や不安を言い当ててくるのが仏である。その声を聞くことこそが私達の座、自分の座として既に与えられているのではないだろうか。それが聞法の歴史であり、静かで目立たない歴史であろう。また続いてきたのは私達の出しゃばる心が治らないからこそである。そしてその声を「聞く」ことが難しいということでもある。この世をむつかしくしている張本人の自覚は一朝一夕には生まれてこない。だからこそ生涯聞法といわれる仏法が開かれている。

出しゃばる私に「身の程を知れ」、「出しゃばる必要はない」と叱ってくるのが仏のはたらきである。

（山崎　哲　記）

日誌

3月17日～23日	春季彼岸会
3月22日	聖徳太子奉讃会・本山特派布教・春季永代経法要 布教使　永尾 道雄師
3月27日	教行信証『信巻』に聞く（第86回） 講師　宗 正元師
3月27日・28日	宗祖忌
3月29日	教区坊守会（二子玉川　岸本坊守参加）
3月30日	同行会修習式　「正信偈の教え」に聞く 法話　山崎 哲
3月31日	中央ブロック会聞法会 （湯島天神・梅香殿　参加者33名）
4月6日	混声合唱団「エコー」事業報告会　練習
4月7日・8日	中興忌
4月12日	五ブロック共催　鎌倉聞法会 （参加者40名）
4月13日	同行会総会　「正信偈の教え」に聞く 法話　大橋 伊知郎

西徳寺婦人会創立30周年記念総会

4月17日(水)午前11時より、会員47名参加のもと、「西徳寺婦人会創立30周年記念総会」が開催されました。議事に先立ち岸本住職より「昭和58年に発足した婦人会は、今日ご参加の方のみならず多くの方々の御尽力により30周年を迎えられた」との祝辞を頂きました。引き続き吉川会長から「私は、とにかく聞法会にきなさいという呼びかけが聞法生活の縁となり、今日婦人会が30周年を迎えられたことは感慨深く、偏に皆様のお陰です」とのご挨拶を頂きました。

議事は大黒洋子議長により進められ、役員改選年度に当たる今年、太田愛子新会長を初め各役員が選出され、24、25年度の議事とともに承認されました。

休憩を挟み、記念法話として大谷義博師より「ぶれる信心」というテーマでお話を頂きました。親鸞聖人は晩年、実子である善鸞義絶という現実から信心がぶれる事実に出遇われ、いのち終わるまで聞き続けていかれた方であるとお話しされました。私どもも30周年にあたり、改めて親鸞聖人のみ教えを中心に歩む決意が促されていると語られました。

その後、本堂の前にて集合写真を撮影後、栴檀の間に場所を移し、美味しいお弁当を頂きながらビンゴゲームを楽しみました。記念品をお渡しし、賑やかな雰囲気の中お開きとなりました。

下記にて新役員をご紹介いたします。

相談役　小池泰子様　吉川昌子様
会長　太田愛子様
副会長　金子桂子様　高嵜勝子様
会計　改田逸子様　鈴木弘子様　辻佐和子様　鈴木綾子様
監査　大黒洋子様　児山治子様
書記　並木慶子様　斉藤悦子様　津久田絹子様　田中年子様
理事　山上ミツ様　木原麗子様　星野登代子様　小山光子様　佐久間美智恵様　荒川玲子様
原子絹江様　磯田ひさ子様　本間多美子様　玉廣照子様　隠岐弘子様　茂木篤様　山田成子様

【記念法話　大谷義博師】

【岸本住職】

(山崎 哲 記)

【吉川昌子会長】

【太田愛子新会長】

【懇親会】

えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせて頂きます。

滋賀県	圭林寺 様	蕨市	東谷 陽一 様
船橋市	津田 敏昭 様	板橋区	木下 好江 様
港区	安井 均 様	福生市	木野村 幸彦 様
松戸市	野坂 敏明 様	江戸川区	谷 晋一 様
荒川区	髙嵜 博 様	鎌ヶ谷市	鈴木 秀夫 様
練馬区	関本 淑子 様	さいたま市	山保 美恵子 様
江戸川区	形屋 顕弘 様	文京区	官林 以智子 様
台東区	入倉 晴治 様	中野区	木田 静代 様

掲示板 平成25年5月

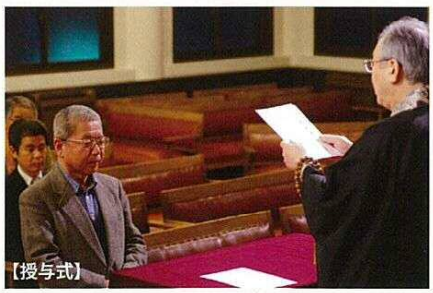
１１日(土)	午後３時半	**混声合唱団「エコー」練習**
	午後６時	**同行会「正信偈の教え」に聞く** 法話　蓮井 邦宗
１２日(日)	午後２時	**城西ブロック会総会・聞法会** (中野商工会館)
１４日(火)	午後４時	**総代会**
１５日(水)	午後１時	**婦人会聞法会　本山リーフレットに聞く** 「お内仏のある生活」
１８日(土)	午後１時半	**定例聞法会**
	午後３時半	**混声合唱団「エコー」練習**
１９日(日)	午後２時	**城南ブロック会総会・聞法会** (大井町きゅりあん)
２３日(木)	午後１時半	**教行信証「信巻」に聞く(第88回)** 講師　宗 正元師
２５日(土)	午後６時	**同行会「正信偈の教え」に聞く** 法話　仲井 真裕
２８日(火)	午後７時	**仏教青年会「歎異抄」に聞く** 講師　宗 正元師

平成24年度同行会修習式

3月30日(土)5時45分より本堂にて「同行会修習式」を執り行いました。吉川会長、岸本住職からご挨拶を頂いた後、住職より記念品と修習証が授与されました。

皆勤賞は安藤貴史様、石井正一様。並びに精勤賞は吉川喜章様、高塚圭子様、野平耕志様が表彰されました。その後、伽羅(きゃら)の間に場所を移し、通常通り法話となりました。

【吉川会長】


【授与式】

平成25年度同行会総会

4月13日（土）6時より「同行会総会」を開催いたしました。今年度は役員改選となり、吉川喜章会長ならびに西徳寺推薦により安藤貴史様が新会長となりました。

吉川会長から退任のご挨拶、安藤新会長から就任のご挨拶を頂きました。その後通常通り法話となりました。

改めて同行会会員をご紹介いたします。

安藤貴史様	石井正一様	吉川喜章様
高塚圭子様	野平耕志様	斉藤芳雄様
井上實様	磨屋弘美様	永尾將男様
藤代竹哉様	佐々木智人様	林法正様

（順不同）

中央ブロック会聞法会

去る３月３１日、中央ブロック会聞法会が湯島天神・梅香殿にて行われました。今回初めてお越しくださった酒井和博さん（台東区）や他ブロック会の会員さんなど、合計３３名で賑やかに行われました。質疑では宗教とは一体何かという疑問が出され、活気ある聞法会となりました。

（高橋 淳 記）

編集後記

4月上旬、お茶所布教のため、本山に10日滞在しました。2日は大師堂におきまして「春法要」(宗祖親鸞聖人御誕生法要)が厳修され、全国各地から大勢のお同行が参詣されました。

記念講演として岐阜聖徳学園大学の譲西賢(ゆずりさいけん)先生からご法話をいただきました。『仏説観無量寿経(ぶっせつかんむりょうじゅきょう)』における韋提希(いだいけぶにん)夫人の苦悩の現実を通して、「念仏のみ教えに帰れ」という親鸞聖人の喚びかけをあきらかにしてくださいました。（主任 木村 記）

西徳寺ホームページアドレス：http://saitokuji.tobiiro.jp/